

今後の県立高校の 在り方検討委員会

資料

出雲高等学校の取り組み

平成29年7月13日

出雲高等学校の教育の基盤

学園の指標

- (1) 自主自立の精神に富み、気品高き自治の学園
- (2) 誠実・勤勉にして、社会的秩序を重んじる学園
- (3) 職員・師弟・校友相睦み合う、友愛協和の学園

育てたい人材

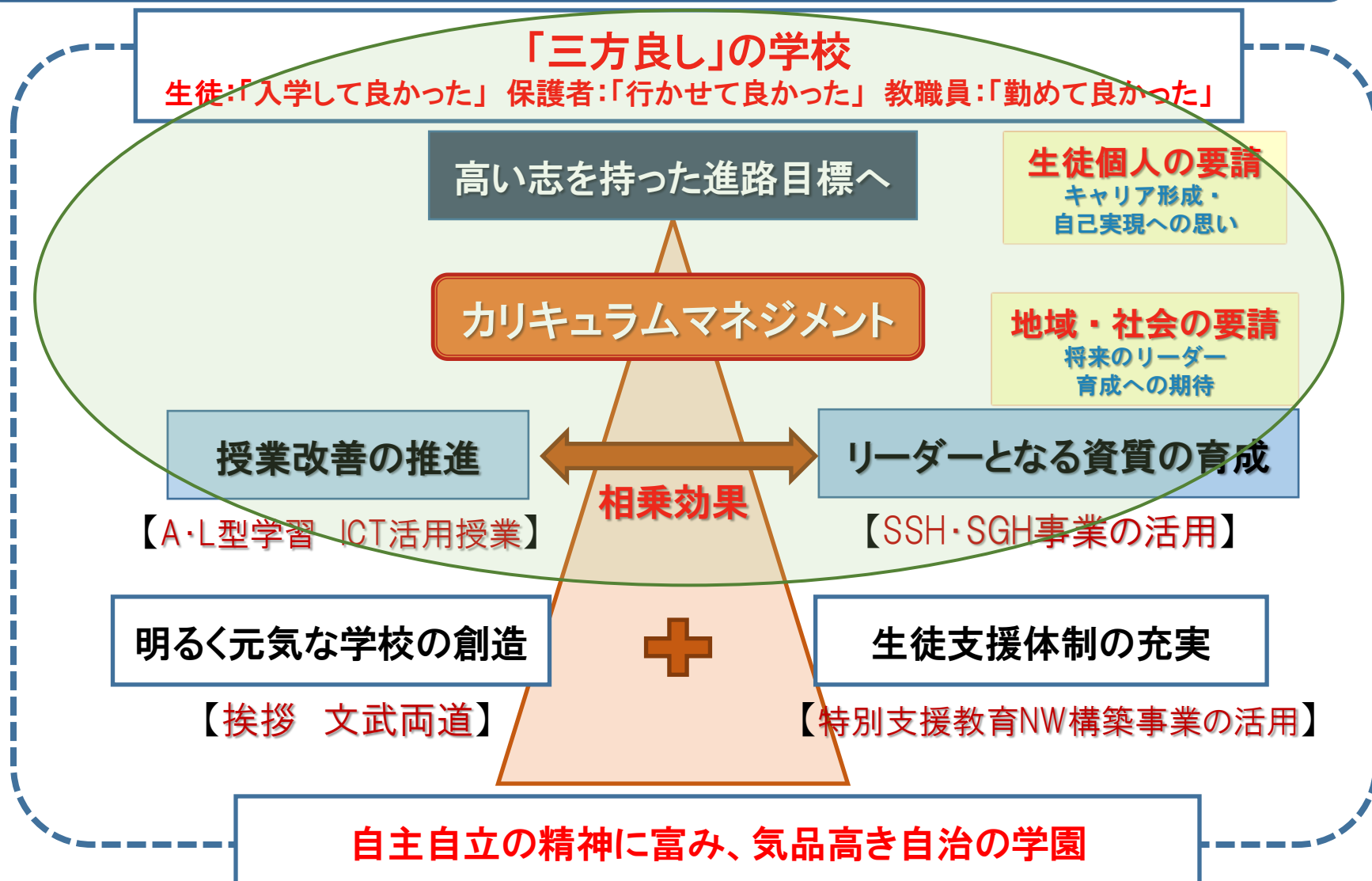
「地域・社会のリーダーとして貢献できる人材」

- (1) 明確な目標を持ち、その実現に向けて努力する人材
- (2) 常に探究心を持ち続け、視野の拡大を目指す人材
- (3) 他人を思いやる心を持ち、互いの存在を認め合う人材

スローガン

「自立・協働・挑戦」

出雲高校のミッション:「地域・社会のリーダーとして貢献できる人材の育成」



出雲高校SGH・SSH高校3年間の取組

地域・社会のリーダーを目指す
上で必要となる資質・能力

学びを行動に結び付け、
新たな学びへと向かわ
せる情意・態度等の形成



地域・社会において周囲と関わる
上で大切な資質・能力

地域や国際社会の課題
発見・解決に向けた思考
力・判断力・表現力の育
成



地域・社会の一員として生活す
るための基本的な資質・能力

実社会や実生活の課題
解決につながる知識・技
能の習得

3年「成果を積極的に発信していく力」を身に付ける

理数科

「SS探究 B」
(1単位)

普通科

理系

「SS探究 A」
(1単位)

文系

「SG探究」
(1単位)

2年「自ら課題を発見して意欲的に学んでゆく姿勢」
を身に付ける

理数科

「SS探究 B」
(2単位)
シンガポール研修
海外研究機関から
の遠隔授業

普通科

理系

「SS探究 A」
(2単位)

文系

「SG探究」
(2単位)

サンタクララ海外研修(希望者)

1年「科学的リテラシー」および
「地域や国際社会に関する教養」を身に付ける

理数科

「SS基礎」(1単位) 関西SS・SG研修

普通科

島根大学研修

「SGベーシックセミナー」

・SS・SGパワーアップセ
ミナー(講演会)

・島根大学との連携

・出雲市・出雲科学館等と
の連携

・高度な英語コミュニケー
ション能力の育成

・スカイプを利用した海外
の高校生との意見交換

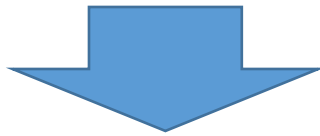
・各種コンクール、コンテ
ストへの参加

・英語ディベート・英語ス
ピーチ大会への参加

地域・社会のリーダーとして貢献できる
人材の育成を目指して

生徒の学びのあり方の抜本的見直し

「知識習得型」に極端に偏る学び



新たな

出雲高校の「学びのスタイル」

の確立が必要

出雲高校の「学びのスタイル」



①協働的な学習

- 教え合い、学び合いによる
「新たな価値あるもの」の創造
- 地域・国際社会への発信

②客観的根拠に基づく思考

- 論理的に考える(Logical Thinking)
- 多角的・多面的に考える(Critical Thinking)
- 事実に基づいて考える(Data-based Thinking)

生徒の「主体的」、
「協働的」、
「探究的」な学びの推進

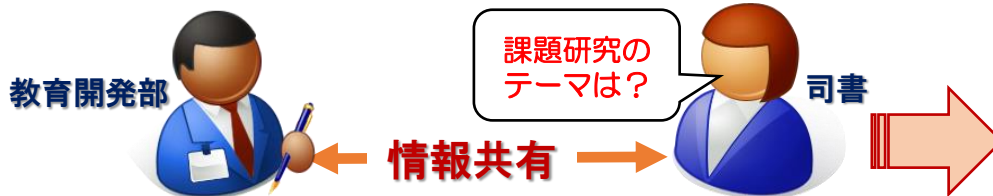


教科の「SSH・SGH化」

教科の「SSH・SGH化」に向けた教員研修

年度	講師	演題	内容
H26	IGS代表取締役社長 福原 正大 氏	なぜ今グローバル教育 が必要なのか	我が国を取り巻く様々な社会情勢や中等教育 への期待といった視点からグローバル人材育 成の指針を得る
H27	ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 吉永 早苗 氏 島根大学教育学部 御園 真史 氏	ディベートを通した論理 的思考力の育成	「論理的に思考し、表現する力の育成」あるい は「他者の意見を批判的に評価し、協働的に 意思決定する力の育成」の具体的な手法につ いて知見を得る
	元広島県立廿日市高等学校校長 才木 裕久 氏	学びを深めるアクティブ ラーニング型授業	アクティブラーニングの目的・内容・効果等を 理解することにより、各教員が生徒の学びの質 を高めるための授業改善の一助とする
H28	出雲高校教育開発部		アクティブラーニング型の実践的な教案を検 討し、生徒の多様な能力育成法等を開発する 機会とする。
	岩手県立総合教育センター 鈴木 徹 氏	アクティブ・ラーニング をより効果的に機能さ せるために	アクティブ・ラーニングの手法を、各教科・科目 で生かしていくための手立てを講じる一助とす る。
H29	鳴門教育大学大学院学校教育研究科 藤村 裕一 氏	ICT機器の効果的な活 用について	協働的、探究的な学びを生み出す手法を、IC Tを活用しながら各教科で生かしていくための 手立てを講じる一助とする
	出雲高等学校教員	ICT機器活用実践研修	本校の実態に合ったICT機器の活用事例を報 告し、教育センター及び周辺高校の教員を交 えた研修を行うことで、より効果的な活用の手 立てを講じる一助とする

図書館を活用した探究学習の拡大



英語科

島根について英語で発表

家庭科

ホームプロジェクト学習

公民科

保健・体育科

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

2月

3月

3年: 図書館
「SS探究・SG探究」

PC

2年: 図書館
「SS探究・SG探究」

PC

1年:「SS基礎」

図書館

基礎力養成演習

調査・探究活動

Logical
Thinking
演習

情報
検索
演習

情報
整序
演習

課題
設定

関西
研修
旅行

中間
発表

クラス内
発表

校内
発表



情報検索用端末の整備が、探究型学習の複数クラス同時展開を可能にした



ICT機器の整備によるSSH・SGH化の加速



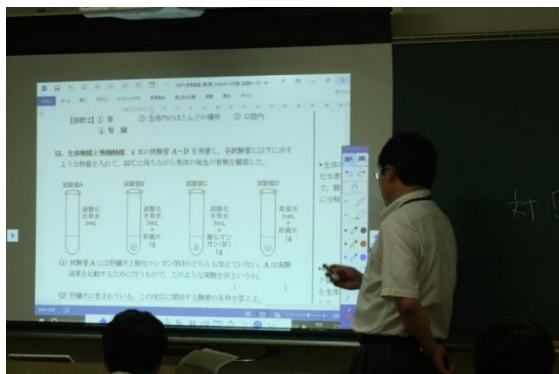
地歴



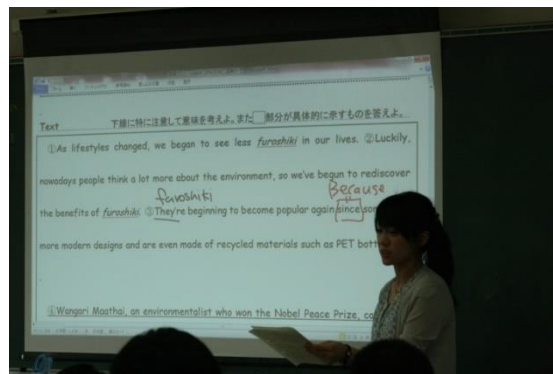
ホームルーム活動



国語



理科



英語



保健体育

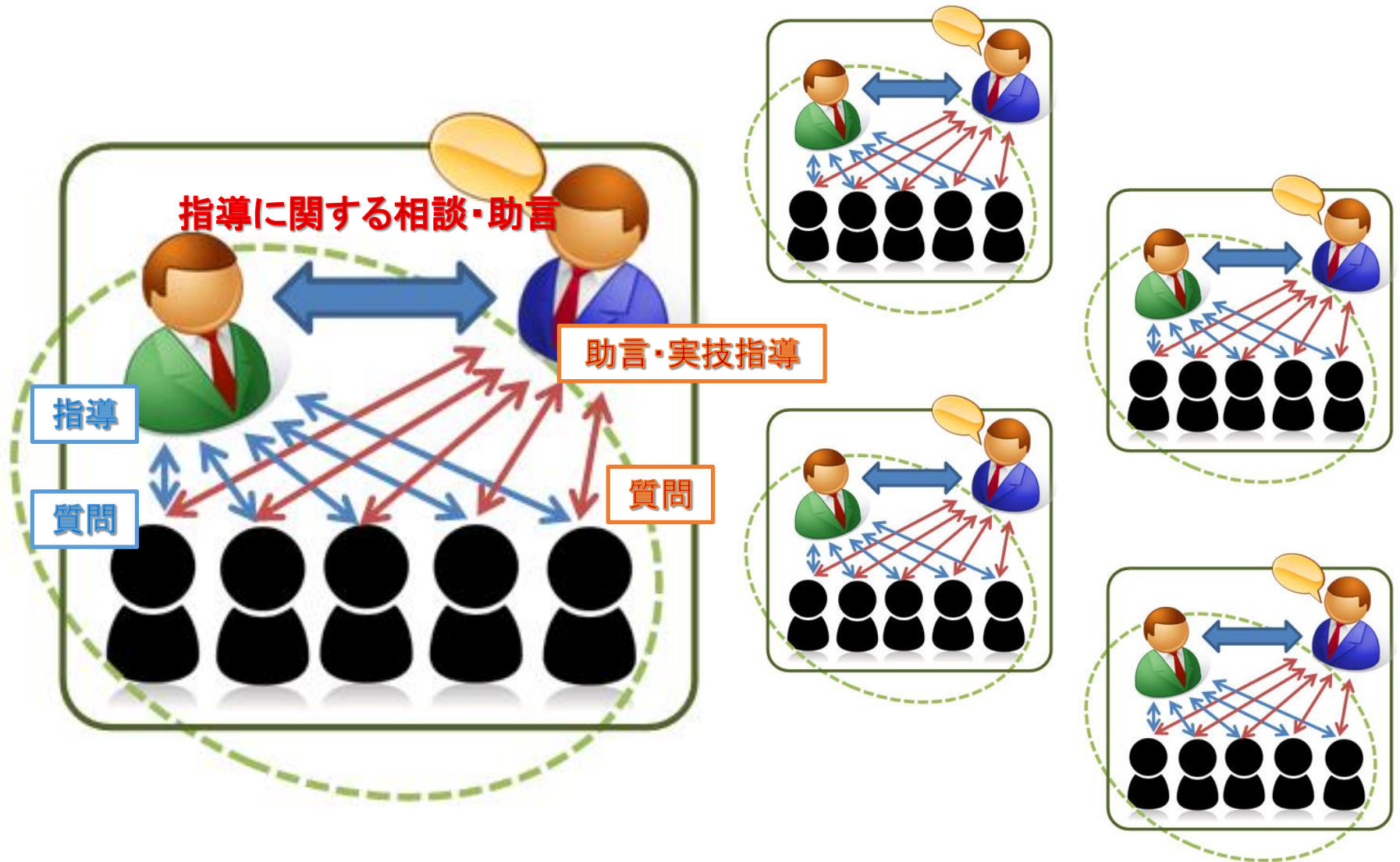
- ・効果的な教材の提示による、実感を伴う理解
 - ・捻出した時間を利用し、深い思考を要する授業展開が可能
 - ・ホワイトボード、書画カメラ等の併用による、双方向の授業展開が可能
- 主体的
 - 探究的
 - 協働的

過去5年間の授業改善効果



教科の「SSH・SGH」化

「課題研究」指導体制（理数科）



「課題研究」指導体制（普通科）

ゼミ主担当教員

指導情報共有

大学教員等

指導に関する
相談・助言

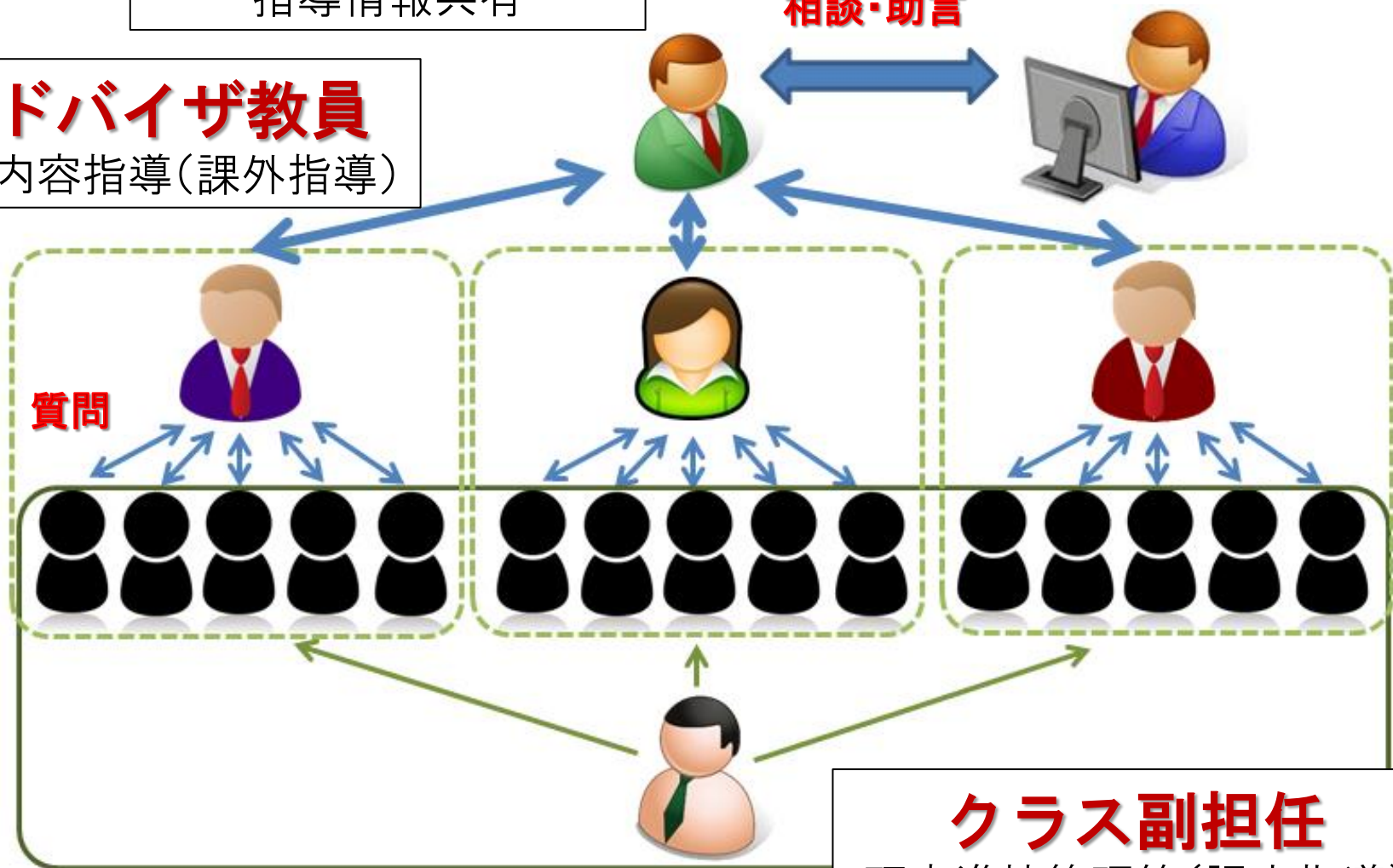
アドバイザー教員

研究内容指導（課外指導）

質問

クラス副担任

研究進捗管理等（課内指導）



課題研究の全校指導体制(2年普通科の例)

指導教員等	役割
クラス副担任 (授業担当)	・クラスの課題研究の進捗管理 ・研究活動の全般的な相談窓口
ゼミ主担当教員	・ゼミ別講義、ゼミ別発表会等の運営 ・研究活動・内容に関する大学教員へのメール等による相談
アドバイザー教員	・担当するグループの研究活動・内容に関する放課後等を利用した指導
外国人教員	・研究活動・内容に関する指導 ・研究レポートの英語表記に関する指導
外部指導教員 (大学教員等)	・研究活動・内容に関するメール等(または直接)による指導 ・ゼミ別講義、ゼミ別発表会での指導・助言
大学院生等	・担当するグループの研究活動・内容に関するピア・サポート

※赤字の教員等が、課題研究の時間に常時生徒の直接指導にあたる指導者

複数の教員が関わる多角的・多面的指導体制

●: グループ
○: アドバイザ教員
△: 大学院生等

【A組】(8グループ)

クラス副担任
外国人教員

【B組】(8グループ)

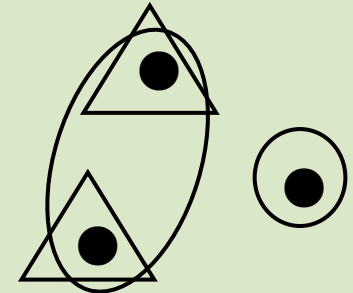
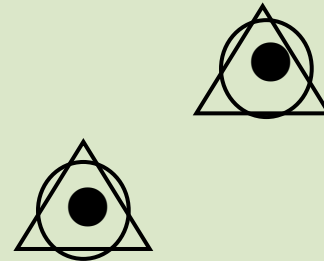
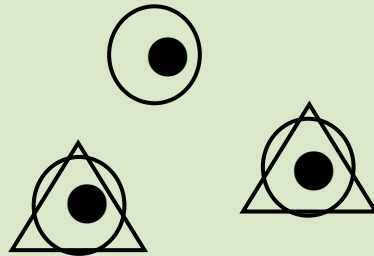
クラス副担任
外国人教員

【C組】(8グループ)

クラス副担任
外国人教員

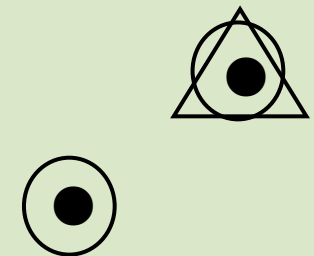
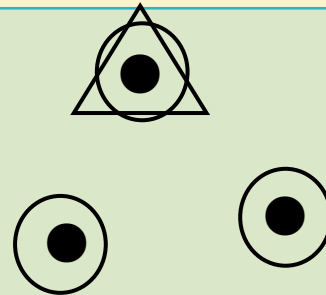
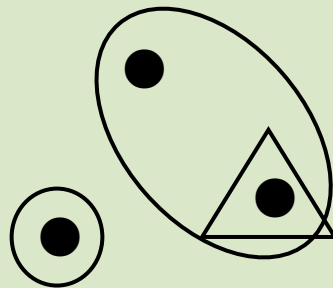
Aゼミ

ゼミ主担当
教員
大学教員等



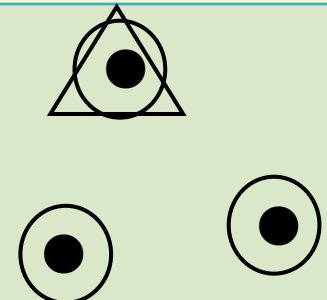
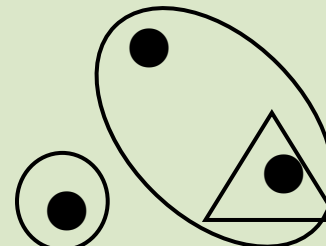
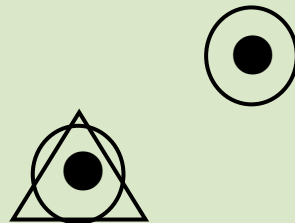
Bゼミ

ゼミ主担当
教員
大学教員等

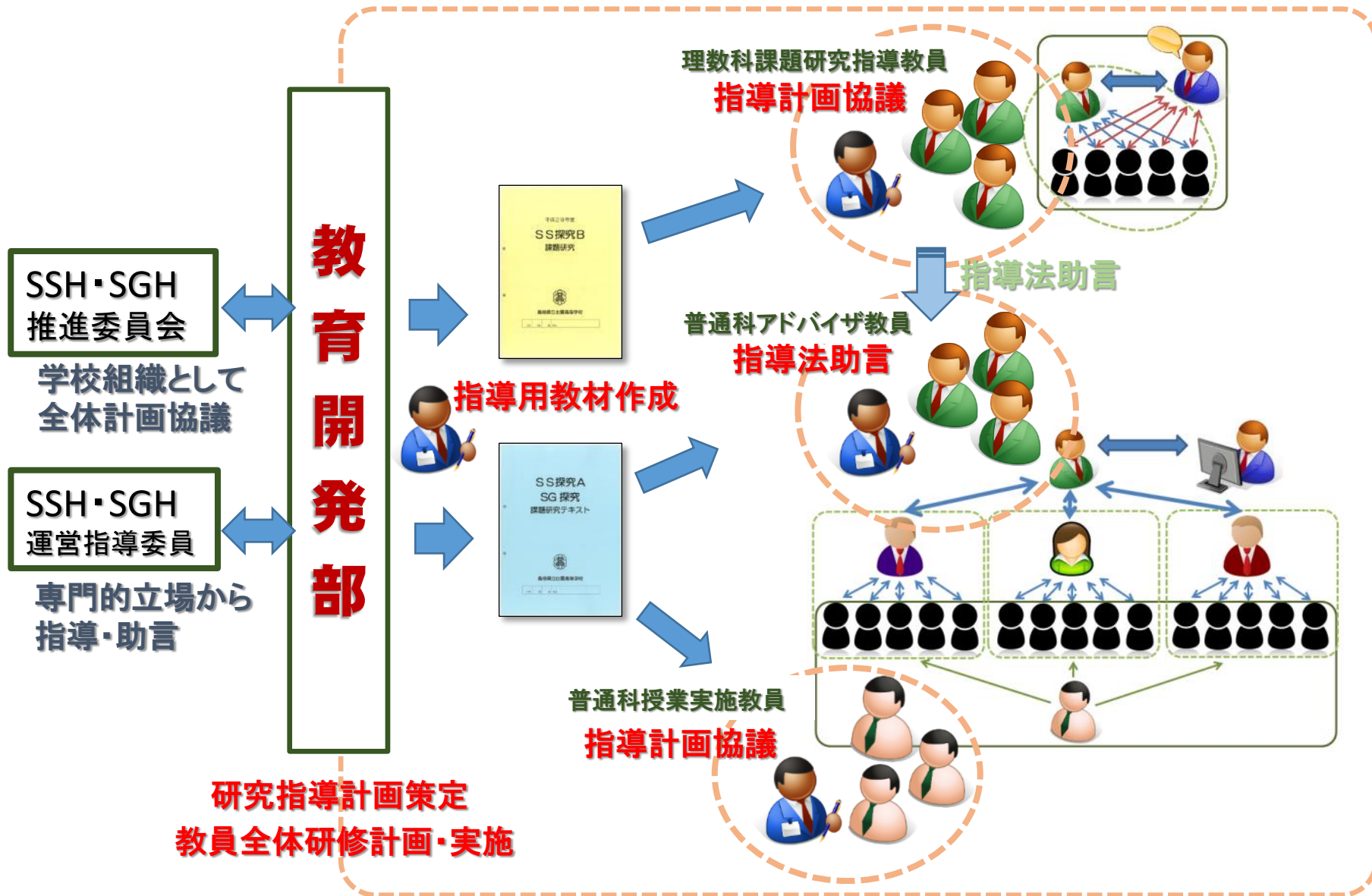


Cゼミ

ゼミ主担当
教員
大学教員等



探究学習指導の支援・・・学校全体が足並みをそろえて



「何ができるようになるか」

「学び」を「行動」へ、そして「新たな学び」へ 地域は学びのフィールド



SGベ－シックセミナー「園芸利用学」
地域農家でのフィールドワーク



課題研究成果発表
出雲市長への政策提言



課題研究成果発表
キッズのためのスーパーサイエンス



NPOとの共創
「フェアトレードって何？」



NPOとの共創
「いずも多文化にぎわい広場」



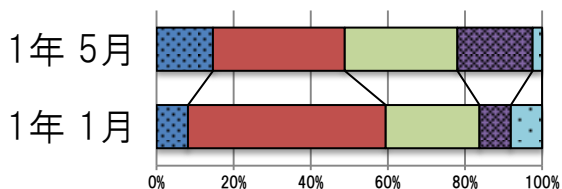
ボランティア活動
島根大学留学生観光案内

探究型学習の成果・・・主体的に学ぶ態度が育成された

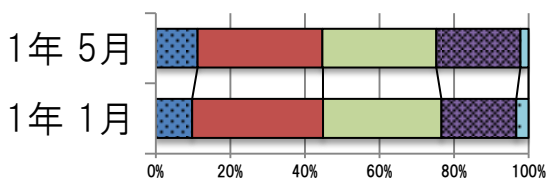
生徒意識調査より

「あなたは、現在、受け身ではなく主体的に学習を行っていますか。」

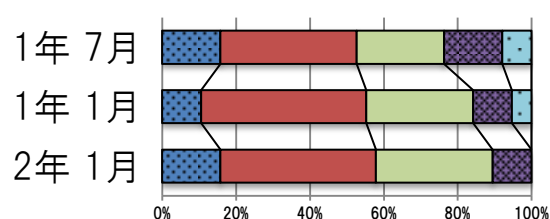
1年理数科



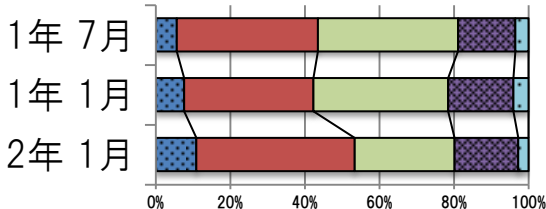
1年普通科



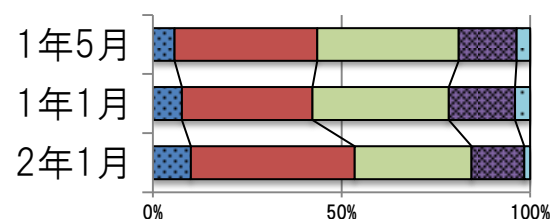
2年理数科



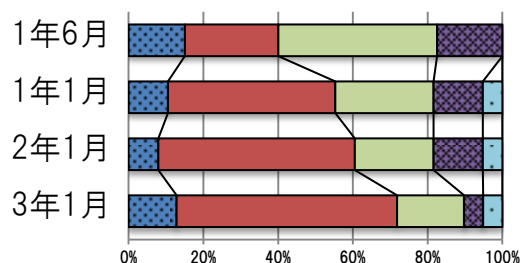
2年普通科理系



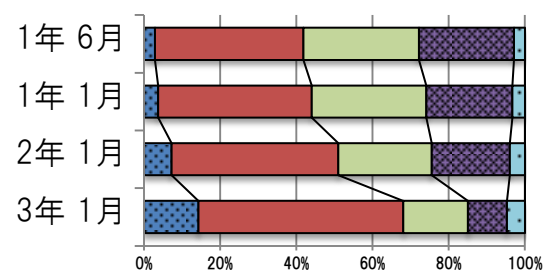
2年普通科文系



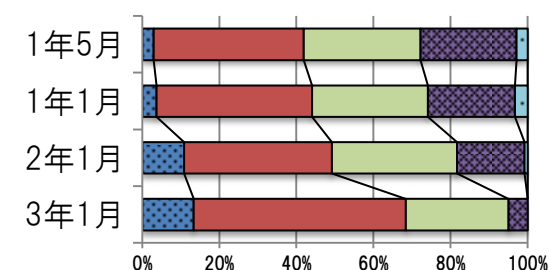
3年理数科



3年普通科理系



3年普通科文系



探究型学習の成果・・・本校の「学びのスタイル」が確立した



- ・協働的な学習
- ・客観的根拠に基づく思考

ホワイトボードを利用したグループ討議



論理的思考力客観テスト

学年		平成27年度入学生 (現3年生)		
実施時期		平成27年4月	平成28年1月	平成29年1月
児童手当の問題	(1)	92.7%	95.7%	98.4%
	(2)	88.8%	96.1%	94.9%
	(3)	69.9%	74.8%	84.6%
レポートの主張の根拠の問題		62.0%	71.8%	81.4%
プログラミング言語の問題			59.3%	73.6%
研究報告の記述順序の問題			63.0%	69.5%
確率的推論の問題				22.8%

探究型学習の成果・・・校外の諸機関との連携が推進された

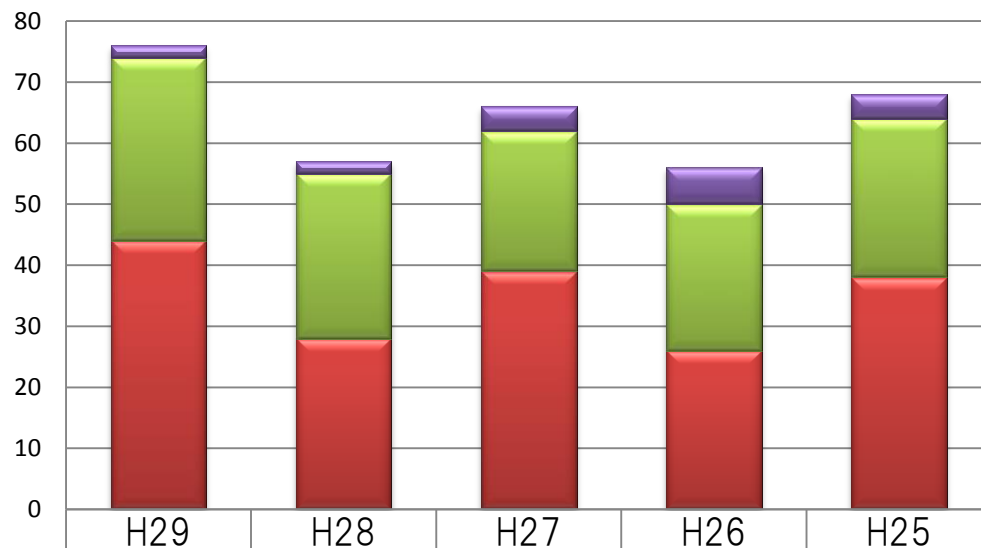
外部諸機関の人材の本校への派遣人数(延べ人数)

	島根大学教員等 (大学院生等含む)	その他外部機関	合計
平成26年度	393名	8名	401名
平成27年度	228名	69名	297名
平成28年度	229名	95名	324名

開かれた教育課程の開発に大きく前進

探究型学習の成果・・・進学実績が伸びた

主要公立大学合格者



	H29	H28	H27	H26	H25
■①東京・京都＋難関医獣	2	2	4	6	4
■②難関10大＋医歯薬	30	27	23	24	26
■③ブロック大	44	28	39	26	38

国公立四大合格者数	215	168	217	177	198
-----------	-----	-----	-----	-----	-----

①難関医獣：旧帝大 医学部、獣医学部、岡山 医学部

②難関10大：北海道、東北、東京、一橋、東京工大、名古屋、京都、大阪、神戸、九州(①含む)

③ブロック大：筑波、御茶ノ水、千葉、金沢、奈良女、岡山、広島、熊本(①②含む)

探究型学習の成果・・・未来の教育のスタンダードへ

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、
そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

生徒のパフォーマンス評価に向けて

ポートフォリオ、ルーブリックの開発

自己評価カード

()年()組 ()グループ 氏名()

グループでの研究活動における、自らの役割や取り組みについて、観点別に振り返ろう。

ふり返りの観点

観点	A (満足)	B (おおむね満足)	C (もっと努力が必要)
学習に向かい姿勢・態度	グループ活動や授業に主体的に積極的に関与した。	自らの役割や役割に意図し活動に取り組んだ。	与えられた役割をこなす程度だった。
コミュニケーション能力	話し合いや議論で他者の意見を受け入れながら、積極的に発言・協働した。	話し合いや議論に参加することはできた。	話し合いや議論の中で発言があまりなかった。
情報活用能力	本時の活動に必要な情報を収集し、それをグループで共有できる形に整理できた。	本時の活動に必要な情報を収集することができた。	本時の活動に必要な情報が集められなかった。

日付	観点	評価	取組についてのコメント(2～3行は書こう)	検印
	学習に向かい姿勢・態度			
	コミュニケーション能力			
	情報活用能力			
	学習に向かい姿勢・態度			
	コミュニケーション能力			
	情報活用能力			
	学習に向かい姿勢・態度			
	コミュニケーション能力			
	情報活用能力			

【アドバイザー教員評価】(上記3回の活動について)

評価項目	満足している取組について	取組について改善の点について	アドバイザー教員からのコメント
A・B・C	A・B・C		

普通科課題研究ポートフォリオ・ファイル アドバイザ教員評価用ルーブリック

評価項目	A (優れている)	B (できている)	C (できていない)
編み込まれている記録について	学習の履歴が分かるように、様々なメモ・印刷した資料なども含めて整理されている。	時系列に整理されていて、学習の履歴が分かる。	順番がバラバラで学習の履歴がわからない。
コメントについて	積極的に受講し、そこで学んだことを次に活かしているという姿勢をみることができている。	教員の指示に従い、意図的に課題に取り組んだという姿勢をみることができている。	積極的に受講したようには思われない(コメントが少ないなど)。

2年普通科「SG探究A-SG探究」『課題研究』評価基準表①(研究レポート評価)

評価者: ()

評価の観点	評価基準	評価項目			
		4 (十分できている)	3 (できている)	2 (やや不十分である)	1 (不十分である)
論理的思考力	本質的な問いや課題について、論理的に思考し、その内容を整理してまとめることができる。	本質的な問いや課題について、論理的に思考し、その内容を整理してまとめることができる。	本質的な問いや課題について、論理的に思考し、その内容を整理してまとめることができる。	本質的な問いや課題について、論理的に思考し、その内容を整理してまとめることができる。	本質的な問いや課題について、論理的に思考し、その内容を整理してまとめることができる。
問題解決能力	課題の解決に向けて、適切な方法を考え、実行することができる。	課題の解決に向けて、適切な方法を考え、実行することができる。	課題の解決に向けて、適切な方法を考え、実行することができる。	課題の解決に向けて、適切な方法を考え、実行することができる。	課題の解決に向けて、適切な方法を考え、実行することができる。
情報活用能力	課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、活用することができる。	課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、活用することができる。	課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、活用することができる。	課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、活用することができる。	課題の解決に向けて、必要な情報を収集し、活用することができる。

コメント

総合得点

学力の三要素を多面的・総合的に評価する **大学入学者選抜**

高大接続改革

主体的・協働的な学びなどを通じて「**真の学ぶ力**」を育成する **高等学校教育**

高等学校までで培った力を更に向上させ、社会へ送り出す **大学教育**

出雲の「**学びのスタイル**」定着

まとめ①

探究的な学習を推進して

- 生徒の学習に対する姿勢が、より主体的になった
- 授業改善が進み、出雲の「学びのスタイル」が定着した
- 生徒の論理的思考力が確実に伸びた
- 全校体制で「課題研究」を指導する、「出雲スタイル」が確立した
- 校外の諸機関との連携が深まり、開かれた教育課程の編成が大きく前進した

まとめ②

探究的な学習を推進して

- 目標を諦めずにやり抜く姿勢が定着し、大学進学実績も伸びた
- 多様な評価方法に関する研究が進み、新しい大学入試制度への対応も可能となった
- 学校全体がより活気に満ちてきた

ご清聴ありがとうございました



出雲高校オリジナルキャラクター
「久徴いずもん」